

鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成27年12月25日 午後14時00分から
- 会 場 グランドエル・サン クリスタルホール
- 次 第 (1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について
(2) その他

1. 開会 進行：政策企画課 高橋課長
2. 挨拶 榎本鶴岡市長
石黒会長
3. 協議 座長：石黒会長、協議資料説明：政策企画課 上野主査

以下意見の概要

女性・高齢者の活躍

○委員

女性と高齢者が活躍できるような仕組みづくりが具体的に必要である。鶴岡には元気な高齢者が沢山いるので、時間に余裕のある方々に、まちづくり、地域づくりにより具体的に参画してもらえるような仕組みづくりが必要である。

また、女性の活躍については、委員の女性化率を高めるなどというよりは、女性の意見がうまく吸収できるような仕組みを作り、それを男性の委員でもいいので紹介してもらえるような仕組みづくりから始めないと、地域性もあり実現しにくいのではないかと。

○委員

女性の目線は、生活的な感覚や生きることに繋がっており、大変大事であることから、単なる労働力ではなく女性の力を活用できるシステムを作ることが大切である。

若者支援

○委員

若者のアイデアや力を試すことができるようなシステムや仕組みづくりが大切である。

○委員

若い人の力を試すことができるような場所が教育にも必要となってくるし、人と会話をする機会が必要である。

人口減少対策

○委員

人口減少に対応するには、地域活動センターが大きな役割を果たすことになる。また、地域の活性化を進めるためには、若者、よそ者、ばか者、それが一番の原動力になる。

○委員

鶴岡高専を卒業して地元就職するのは2割程度である。これをもっと増やしたいが、学生や保護者が地元でどのような企業があるのかを知らないし、企業名を見てもどのような会社なのか分からないところもある。

地元にはこんなに凄い会社や食文化などの資源もあり、住環境も良いということを教育すれば、一旦外に出ても戻ってくるのではないか。

○委員

雇用の安定を図り、若い人たちが定着していくことが人口減少の方に結びつく。特に、20歳から35歳までの子育て出来る女性がいないと人口は増加しないので、働く場と育児支援の体制が重要である。また、職場での女性の登用を行わなければ、女性は戻ってこないのではないか。

○委員

自分のことしか考えないような風潮をなくしないと、少子化どころか、地域も衰退してしまう。

市民生活分野

○委員

県の津波浸水、被害想定では、想定される津波の高さがこれまでの倍に増えており、海岸地域の住民は不安であることから、早急な対策をして欲しい。

○委員

地区担当職員について、地区で制度を理解していないところもあることから、職員と地区住民とがよく連携できるようにしてほしい。

○委員

コミュニティ基本計画を受け推進計画を策定中であるが、地域の課題解決に積極的に取り組んでほしい。

○委員

団体との連携や行政の力を借りながら、住みよいまちづくりを進めたい。

○委員

イベントなど地域のパワースポットとなるような取組みについて、市民みんなで協力する体制の構築が大事である。

健康福祉分野

○委員

核家族化や一人暮らしが増えており、また認知症の方も増加している現状で、地域福祉リーダーの養成を目指しているのは非常に大切なことであり、地域全体で支え合う仕組みが重要である。

○委員

超高齢化と人口減少社会のなかでは、医療も変わっていかなければならず、国は地域医療構想という形で病院、病床の再編と在宅医療を含む地域包括ケアシステムの推進を唱えている。これから3年ぐらいで本当に本気でやらないと、介護難民、医療難民がこれから続出する危惧を持っている。

○委員

鶴岡地区は医療連携も含めて全国的にも非常に先進的な取り組みを行っている地区で、在宅医療を担う医師や、訪問看護師、施設の数など全国的に見ればかなり恵まれた地域であり、福祉に関しては充実している。

○委員

荘内病院の倍の規模をもつ日本海病院が近くに出来なことで、バランスが崩れ、市民が日本海病院へ行かざるを得ない状況になっている。これを何とかしなくてはならないが、荘内病院だけの問題ではなく、市民が支えていくという視点も大切である。医師不足を解消するには、市民も含めて荘内病院を盛り上げ、みんなから愛される魅力的な病院とならなくてはならない。

○委員

鶴岡で全国に先駆けて開発した電子カルテシステムがあり、各地で導入されている。このシステムは医療の先進地で導入しているからこそ売れるのであり、鶴岡が常に先進地でなくてはならない。

○委員

介護職員の不足も問題となっていることから、対応して欲しい。

教育文化分野

○委員

スポーツ施設や学校のグラウンド中には、夜間照明が暗い施設があるので、対応して欲しい。

○委員

高専では、企業の意見を参考に、ダブル、トリプルスペシャリストを養成するため、学科改正を行った。また、教授と地域企業のエンジニアがペアを組み、1～2か月会社で教育してもらうことを行っている。こうしたことで、外で働くことやお金を稼ぐことを覚えていくし、企業も学校のレベルをチャック出来るようになる。

○委員

メタボロームキャンパス内に、高専応用科学研究センター（K-ARC）を開設し、全国高専の研究拠点となっている。全国の高専から、教員や学生が来て、この地で研究を行ってほしい。また、センターで研究するだけでなく、学生には起業してほしい。

○委員

地方にある大学は、地方の活性化のために働きかけをしなくてはならない。

○委員

高校の取組みが書かれているが、今高等学校は存亡をかけて戦っている状況で、市が積極的に取り組みを活性化しようという姿勢は大変評価できる。

○委員

総合型地域スポーツクラブは県下では断トツの10クラブあり、また、里山歩きや25のウォーキングコース、市民登山、ノルディックウォークなどを継続して取り組んできたことが、スポーツ人口の増加や健康の増進に繋がっている。

○委員

べにばな国体時に建設されたスポーツ施設は老朽化しているので、対応を考えなくてはならない。また、モンテディオの発祥の地であるので、サッカーにふさわしい施設がないのは残念だ。

○委員

地域への愛着の醸成は、本市の小中学校ではうまくいっていると思うが、進学校を卒業した人材がなかなか戻ってこないところが課題である。県でも鶴岡南高校で行っているような企業説明会を全県的に進めるとのことである。

○委員

文科省、県教委と連携し、小中高一貫した英語教育の推進を行っているが、今後は中高一貫教育を推進して欲しい。

農林水産分野

○委員

全国的に農地集積を進めているが、本市では高齢で規模拡大を行っている人たちが多いため、これから5年後、10年後に、集積された大規模農家が続けていけるか不安である。

また、国では農地保全制度や中山間直接支払いなどの制度を作っているが、農家にとってはその事務処理がとても難しく、担い手の負担となっている。

○委員

自然条件や大型機械が使いえないなどで不利な中山間地の農業について、それを考慮した対策を考えて欲しい。

○委員

最近杉材が売れないため、山に手をかける人がいなくなってしまった。バイオマスとして燃料に利用されるようになってきたが、杉が売れるような施策も検討して欲しい。

○委員

地域産材は、櫛引に建設されたバイオマス発電所や、朝日中学校、羽黒中学校などの公共施設で利用されており、杉材での集成材はハウスメーカーの建物などで使用されるようになってきた。東京オリンピックでも日本の木材が多く使用されることを期待している。

○委員

森林組合には、今年度女子職員が入ったが、自分の会社の良い点を発信していければ、いろんな人材が集まるのではないか。

○委員

認定農業者は若い世代が少ないが、こうした世代に農地を集積しながら農業振興を進める方策を行って欲しい。

○委員

ラグビーワールドカップやオリンピック開催に合わせ、選手村などへの食材提供を県と一緒に働きかけ、食材、食文化などのアピールを行って欲しい。

産業振興分野

○委員

先端技術は高度化すると地域の企業では活用しにくくなる。地域では先端技術の裾野となる技術を活用した産業を起こしていくことも必要である。

○委員

地元の企業を知り就職してもらうには、生徒、学生よりも親に知ってもらうことが必要である。

○委員

市全体の都市改造に長年取り組んできた結果、着実に魅力ある町になり、訪れるお客さんも喜んでいと思うが、お客様に対しての交通マナーが悪いので、マナーの向上に取り組まなければならない。

社会基盤分野

○委員

少子高齢化が進行すると、空き家がますます増えてくるので、実態調査をもとに綿密な対応をすることが必要である。

また、住んでいる方が施設等に入りスムーズに連絡が取れない場合もあることから、地域でも今後の空き家対策をどうすればよいのか研修を進めている。

○委員

手向地区では歴史的風致維持向上計画が認定をされ、住民と協定を結んでまちづくりをしようとしているが、塀を変えたりすることに補助制度があると、事業推進に意欲が出てくるのでないか。

○委員

高速道路は今までのやり方どおりの働きかけを行っていても繋がらない。違う取組みを考えなければならない。

○委員

本市のメインストリートである銀座通りを含む中心市街をどうするのか、真剣に考えなくてはならない。

○委員

新しい文化会館を中核施設として、まちづくりに繋げて欲しい。

○委員

学校統廃合により空き校舎があることから、今後の活用を考えなくてはならない。

計画の推進

○委員

総合計画は10年を一つの単位として計画を組み替えていくことになっているが、人口のことを考えると、もう少し長いスパンのビジョンが必要ではないのか。

20年から30年後の鶴岡市はどのような姿が相応しい、また、人口は増やさないといけないのか減少を食いとめればいいのか、もう少しコンパクトになっても、鶴岡らしいふさわしい姿があり得るのかなどを考える必要がある。

○委員

自分たちの意識変革が一番大事であり、住み暮らすために何が出来るのかを意識付けしなくてはならない。

○委員

若い人からも地域に関心をもってもらい、地元にいなくてはならない自分の存在を作らなければならぬ。

○委員

総合計画はどうしても総花的にならざるを得ないが、これだけ多くのことが書いてあるが本当にできるのか。進捗状況のチェックのチェックはどのようになっているのか。

○委員

市職員にはコスト感覚と時間を詰めて早くやるという資質を身につける研修、教育を行ってほしい。

○委員

歴史をしっかり学ぶことが大切である。

○委員

市民の意見を取り入れたため、一般の人或は若い人たちの意見を積極的に聞いていく姿勢は今後でも続けて欲しい。

○委員

すべてのことが縦割りでのんびりやられていた時代ではなくなっており、各分野でコラボし、統合しながら一つの目標に向かっていかなければならない。